

————内灘町の昔、そして現在のみどころ————

内灘町の歴史的な事項と今の内灘町のみどころを紹介していきます。

1. 河北潟干拓の歴史的背景

(1) 江戸時代の河北潟干拓

河北潟（かほくがた）は石川県河北郡中部にある潟湖である。かほく市、内灘町、津幡町、金沢市、に接している。古くは蓮湖・大清湖（たいせいこ）とも呼ばれた

河北潟を干拓した歴史を調べて行くと、内灘とのつながりが見えてくるのです。

海の百万石、海商でもあつた銭屋五兵衛は安永 2 年（1773 年）に生まれ、蝦夷地（北海道）からルソン・琉球まで貿易対象とし、明治時代オーストラリアの南の島「タスマニア」に銭屋五兵衛領地と石碑があつたが英国人により破壊されたとの逸話もある郷土の偉人です。銭屋五兵衛は莫大な蓄財を成し、私人として「河北潟干拓事業」を試みたのですが、埋立ての土砂を固めるのに石灰を使用したことから、工事途中に潟の魚が死にそれを食べた住民が食中毒死したことから、湖に毒油を撒いたという容疑で一族が捕らえられ嘉永 5 年（1852 年）80 歳で獄死した。その後 16 年で新しく明治時代が始まる前でした。

なぜ干拓事業は失敗したのだろうか、その謎を考えてみました。

普請人夫は河北潟周辺の村々から集めるのではなく、普請の経験のある宝達者を使用したことで、内灘の漁民たちは突然、自分たちの漁場が奪われることに怒りを覚えた事でしょう。藩の意向に逆らうことは、この時代は死を意味したものだだったので。

それでも、工事中の杭を抜き工事を妨げたようです。工事人夫として工事に使用された状況であつたら工事はどうなったのでしょうか、工事に対しての事前の根回しや工事にかかわることができれば状況は変わっていたかも？と考えるのです。

工事人夫の宝達者とは羽咋郡宝達の住民で彼らは昔、宝達金山の堀り子であつたが、鉱山がなくなってからは、土木工事を専業としていた。

埋立ての泥を固めるために入れた石灰のため死魚が出たといわれていましたが、これを調べた記録があつたので紹介します。

嘉永 5 年(1852 年)7 月中旬から河北潟西北の水面におびただしい死魚が浮き上がった。

荒屋、室、大崎、内日角の 4 ケ村のあたりは 7 月 27 日ごろから水面を覆って死魚がうきあがり、鶺鴒、鳶、烏、猫などの屍が見られた。郡役所では、魚類の死因を確かめるまで河北潟の漁を禁じる達示をだした・

当月初めより瀉のうち、鮒等所々におびただしく死におり、右の死魚を食い候鶴なども死に候段など、粟ヶ崎村等より断りに及び候。

よって食用に売買をさしとめ、右魚類の死に候儀、何の品により候儀に候や、とくと見定め追々断り及び候よう申し渡し、その品あい分かり候まで、まずしばらく猟業あい見合わせ候よう、それぞれあい洩らさざるよう申し渡すべく候。 以上

子 8 月 12 日

前田弥五郎

石川河北両御郡瀉縁村々才許これあり 十村中

8 月 25 日、藩医の黒川良庵が河北瀉に出張し、実情を調査の上、湖水が自然に腐敗したのであろうと判定した。

「嘉永 5 年壬子の秋 8 月、わが加州蓮湖（河北瀉）の漁族ゆえ無うして死す。人畜鳥類これを食すればまた死す。ゆえに官より湖漁を禁じ、周辺 13 村に米を賜う。道路の説にいわく、近年田疇石灰を用ゆ。その毒湖に入り漁族を害すと。あるいはいわく、今夏一蟒蛇斃る。その毒湖にはいりて然りと。あるいはいわく、近年蓮湖の左岸に柵を植えもって新田をひらく。柵内漁死し漁夫きてこれに網しその畦畛を傷つくる。ゆえに貧賈毒油石灰を流し、以ってこれを防ぐと。衆説粉々いずれが真なることを知らず」

8 月 28 日に瀉縁の須崎村へ出向き漁師に船を出させていた、瀉の東側では死魚を一匹も見なかったが、瀉の西側へ向けて行くうちに水が藍色に変ってきた。夏に南風が吹くと瀉の水が海に流れて行かないので腐り、ヤンシュウという水垢がわくという。瀉の西北部ではおびただしい死魚の群れがあらわれたという。

良庵は西北部を視察し引き揚げた。その後次の結論を藩に提出した。「かくのごとき大海にして、人為、また一蟒蛇、あによくこの大害をなすことを得んや、けだし湖水腐敗のいたすところなるべし」と藩に報告した。

（波上の館 津本陽著書 中央公論社発行より）

原因は湖水の循環なく、藻が繁殖しそれが腐ることによる水質の劣化が源であることは、工事の着工前からも「続々漸得雑記」の中でも書かれています。

それでも銭屋五兵衛を罪人としたのは、加賀藩の権力争いに巻き込まれ、五兵衛の後ろ盾だった藩の重鎮であった奥村丹後守栄実が亡くなり、蓄財を良しとしない黒羽織党の勢力が強くなったからといわれています。

(2) 昭和の河北瀉干拓

時代は移り昭和 27 年に始まった内灘の試射場闘争で、翌 28 年 9 月 14 日内灘村は試射場接收を受諾することになった。その条件の一つが、河北瀉の干拓事業であった。

また、38 豪雪で陸路が雪で完全に遮断された経験から金沢港建設の機運が高まり、浚渫土を河北潟干拓の埋め立てに使用したのである。

また、干拓にと豪雨により潟にたまった水を放出する防潮水門をはじめ数台のポンプを施設するなどの施設が出来た。

干拓が行われた現在は淡水湖。干拓前は面積 23km²、周囲長約 37km であったが、2002 年 10 月 1 日現在の面積は 4.13km²である。

昭和 60 年(1985 年)には約 1100ha の農地が完成した。しかし既に農業は減反政策の時代に移っており、入植地の多くは放牧場となっている。

2. 内灘闘争

昭和 27 年(1952 年)11 月 20 日、内灘村の婦人を中心にした 1000 人余りが、ムシロ旗を先頭に立てて県庁前の広場へつめかけた。内灘闘争と云われる争議です。

昭和 25 年(1950 年)の朝鮮動乱以降、急激に増大したものは戦争特需の砲弾類製造であった。これらの砲弾の検査には試射による検査がひつようであったが、政府は試射場の確保に苦慮していたのである。27 年に愛知県の伊良湖岬、静岡県御前崎と石川県の内灘砂丘の 3 か所が選ばれた。内灘については地元も県も知らされないうちに米軍の現地調査を経て 9 月になって政府から砂丘地接收の交渉が始まった。

中山又次郎内灘村長は知事に反対の意向を伝えると共に、直ちに上京し接收絶対反対を嚴重に政府に申し入れを行なった。

この話は、県下には広がったが一般的にはほとんど反響を呼ばなかったのであるが、左社、右社、労農、共産の諸政党は反対の声明や署名運動、反対大会をおこなった。これら革新諸党は反米と再軍備反対を性格にしたものであった。

この年の 10 月に衆議院選挙があり、この選挙では対日平和条約と日米安全保障条約調印後の初の選挙となり、県下の選挙では内灘問題は投票にはほとんど影響が無かったといわれている。しかし全国的には与党自由党が微減したことから試射場問題は一応白紙状態に戻されたような状況であった。

10 月 30 日成立した第 4 次吉田茂自由党内閣に石川県選出の林屋亀次郎参議院議員が国務大臣として入閣したが、之を契機に内灘問題が再燃することとなったのである。

11 月に地元内灘村をはじめ県や金沢市の諸団体の反対運動も高まり、村民はほとんど連日のようにムシロ旗を先頭に県庁へ陳情デモをおこなった。

その後、1 億円の補償金などの条件で 28 年 1 月から 4 か月間一時使用の承諾を内灘村と結ぶことになった。

試射場反対運動は革新団体は勿論のことであるが、PTA や婦人会の県婦連の活動が最大の原因といわれている。また多くの人が共鳴したのは米軍進駐によって起こる風紀問題であった。

使用期限のせまる 28 年 3 月から内灘問題は激しさを増すのである。4 月には参議院の半数改選が予定されていたが、突如、国会開催中に「バカヤロー」解散により参議院に先立ち衆議院の選挙も行われることとなった。

林屋は民主党から参議院で当選していたが、その保守合同から改進黨に入党せず、自由党の吉田内閣に入閣した経緯もあり、県政界に大波紋をおこし、民主党は林屋の推薦をやめ独自候補として井村徳二をたてた。この対立に拍車をかけたのが内灘問題である。しかも革新系の者も井村氏支持にまわった。

[大和&武蔵]

林屋氏と井村氏の対立は決して保守と革新の対立だけではなく、内灘接收を支持する者と反対する者との対決と変わって行ったのである。

井村氏が大和デパートの社長であり、林屋氏が武蔵ヶ辻デパートの社長であったことからマスコミはかつての超弩級戦艦の大和&武蔵になぞらえて戦艦大和と武蔵の内灘沖海戦と全国的に喧伝した。

この問題をめぐって保守系も革新系も内部から二つに割れ、それと利害関係、思惑が結びつき泥沼のようになったが、結果は現国務大臣の林屋氏の落選となったのである。

政府は地元の反対が根強いので一時は試射場中止を表明したが、永久接收をあきらめたわけではなかった。“**金は一時、土地は万年**”と書かれたムシロ旗を掲げ接收地撤回の運動は激しさをますなか、選挙後 1 か月後の第 5 次吉田茂自由党内閣は試射場再開を強行した。7・8 月と反対運動はさらに続けられたが、現地における反対運動が外部からの応援部隊の軍事基地撤廃と反米闘争というような闘争趣旨の違いにより、県市や県婦連などの各種団体が離れていき、闘争も労働組合や学生と内灘村民に限られるようになった。しかし、その労働組合や学生が村民と共同して闘争を続けることに懐疑的になる村民もでてきた。村民の多くはそれまでの闘争で、生活は破たんし、前途を悲観し始めたことである。

かくして 9 月 14 日、内灘村は試射場接收を受諾することになった。

(石川県の歴史 下出積與著書 山川出版社)

[着弾地観測場遺跡]

現在の内灘斎場付近、丘の上にある遺跡。昭和 56 年 (1957 年) まで使用されていた。これは当時試射場から発射された砲弾の命中率や爆発、不発を確認するために造られた石造りの建物で、見晴らしのよい丘の上に立てられた。別名 O・P (オブザベーション・ポスト) と呼ばれ、のぞき窓が横長でポストに見えることからこの名が付いた。試射場時代の面影を残す数少ない遺跡である。しかし今は外壁が一部崩れていたり、入り口にあったはずの鉄扉が朽ち果てて無くなっていたり、草木に包まれていたりとかなり寂れている。ただし内部の損傷はあまりなく、のぞき窓も健在、当時の面影を残している。

(.wikipedia より)

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%86%85%E7%81%98%E9%97%98%E4%BA%89>

内灘闘争の歴史、展示物は内灘町の「砂と風の館」に当時の記録を風化させないとの思いで常設展示されています。

3. 粟ヶ崎遊園地

かつて石川県下には「北陸の宝塚」と謳(うた)われた一大パラダイスがあった。金沢の近郊、粟ヶ崎の砂丘地に造られた「粟ヶ崎遊園」である。

大正 14 年 (1925 年)、浅野川電気鉄道社長で、材木商であった平澤嘉太郎によって開設され、1941 年 (昭和 16 年) に軍に接收され閉園。戦後も再開されること無く歴史を閉じた。

海水浴場を控えた敷地 6 万坪で兼六園の倍近い敷地には 1000 人収容の大劇場をはじめ、100 畳敷の大広間、料亭、洋食堂がありあった。主役は子供たちで、海水浴と並んで砂丘に広がる子供の国で名物の大山滑り台があり、その他に動物園や野球場などもあった。

遊園の呼び物は少女歌劇団によるレビューであったが、太平洋戦争を契機に休業を余儀なくされた。戦後、遊園の建物はオリンピック博覧会 (昭和 26 年) に利用されたのを最後に処分され、パラダイスは永久に人々の前から姿を消してしまった。現在は内灘町の閑静な住宅街となっている。(図説 石川県の歴史 河出書房新社より)

粟ヶ崎遊園地の資料、展示物は内灘町の「砂と風の館」に常設展示されています。

～～～内灘町のみどころ～～～

内灘町のホームページから紹介します。

内灘町サイクリングターミナル

内灘町サイクリングターミナルは、公共宿泊施設です。

日本海に面した雄大なローケーションが抜群。海側のお部屋からは夕日をご覧になれます。



大型海賊船で楽しめる総合公園

海賊船の形をした遊具には、船体部分に 24 種類、周囲に 15 種類の遊具、ベンチ等が配置され船体下部は非常用物資を備えた防災備蓄倉庫となっています。UFO 型の展望台からは、日本海、立山・白山連峰等 360 度のパノラマが展開しています。運動施設は、野球場、テニスコートがあります。

ほのぼの温泉

社会福祉センターに併設された町民温泉です。社会福祉センターは宿泊施設もありますが、耐震工事が必要ということで現在使用できません。温泉施設は使用できます。

河北潟を一望でき、遠くは白山連邦まで望むことができる大展望風呂『ほのぼの湯』。広くて明るい浴場は、お子様からお年寄りまで安心してご利用できます。ジェット風呂・サウナ完備。



風と砂の館

内灘町の歴史や資料、凧や文化財を展示している施設 「歴史民俗資料館 風と砂の館」です。

第1から第4まで分かれた展示室は、粟ヶ崎遊園コーナー・内灘闘争コーナー・凧コーナー・内灘の民俗と歴史コーナーと内容盛りだくさんとなっているほか隣接の茶室「惜亭」の見学も出来ます。また施設見学の際には、その場で声をかけていただければ「内灘砂丘ボランティア」スタッフが館内をご案内いたします。

内灘大橋 (サンセットブリッジ)

《町の南北をつなぐ夢の橋》

1963年(昭和38年)に着工された河北潟干拓事業によって内灘町は南北に分断されていたが、2001年(平成13年)9月内灘町民の永年の夢であった内灘大橋が開通しました。

《町の新たなランドマーク》

全長344メートルの斜張橋という優美な姿は、内灘町の新たなランドマークとして新しい観光名所となっています。日没から午後9時(4月～9月は午後9時30分)まで美しくライトアップされ、周囲をロマンチックな雰囲気包みます。

《恋人の聖地に選定》

その美しい景観がデートスポットにふさわしいとして、NPO法人地域活性化支援センター(静岡県)から「恋人の聖地」に選ばれています。

